

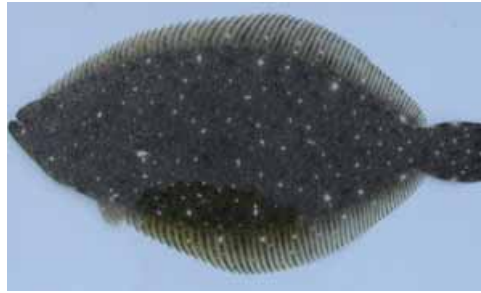
平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

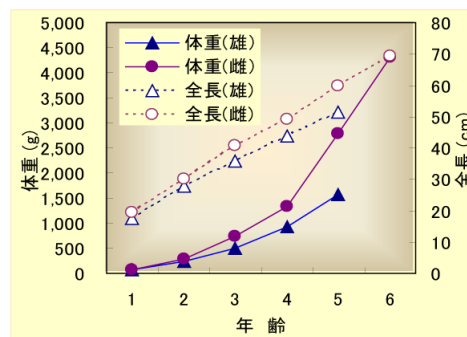
系群名 日本海北・中部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳以上
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 春～夏季(4～7月)、水深50m以浅
索餌期・索餌場: 秋～冬季(8～3月)、水深150m以浅
食性: 着底後はアミ類など、その後魚類が主食、他にはイカ類、エビ類、カニ類等
捕食者: 不明

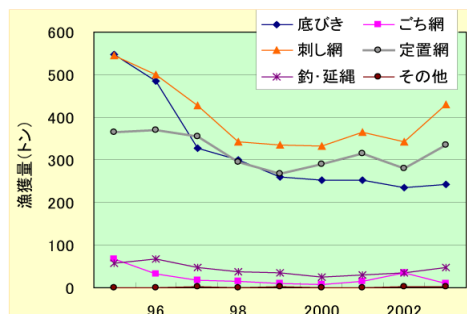
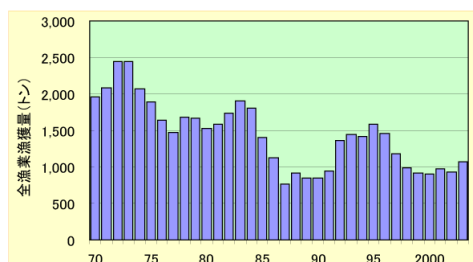


漁業の特徴

本種は沿岸性の高級魚で、栽培漁業の代表的対象種である。日本海側の北～中部の各府県(青森～兵庫)で主に刺網、定置網、底びき網などで漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量は1988年以降増大傾向にあったが、1995年の1,581トンとピークに1997年は1,175トン、1998年は991トン、1999年は910トンと減少した。その後、2000年909トン、2001年979トン、2002年925トンと横ばい傾向が続き、2003年には1,068トン(概算値)と前年より143トン増加した。

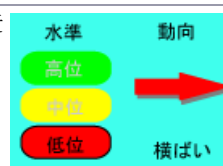


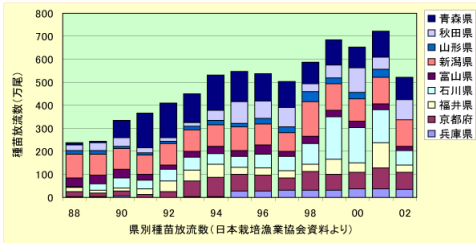
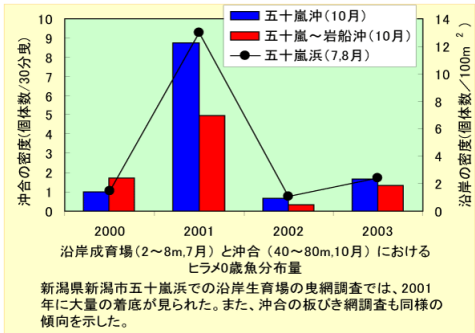
資源評価法

資源量が推定できないため、漁獲量の推移から資源の動向を判断した。この海域でのヒラメの主要な漁業である刺し網と小型底びき網1種の出漁日数、小型定置網と大型定置網の漁労体数は最近5年間ではいずれもやや減少傾向で、それに対する漁獲量の割合は1998～1999年以降いずれもやや増加傾向を示している。漁労体数や出漁日数の傾向から、漁獲努力量が急激に増えているとは考えにくく、漁獲量から資源量を判断する1つの根拠となると考えられる。

資源状態

長期的な漁獲量の動向から判断すると、資源の水準は低い水準と考えられた。また、最近の漁獲量の変動傾向から資源の動向は横ばいと判断された。





管理方策

漁獲量の推移から資源水準は低位で横ばい傾向と判断された。資源水準を回復するためには漁獲量の削減が望ましいと考えられた。最直近5年間(1999～2003年)の平均漁獲量×0.8をABClimit、さらにABClimit×0.8をABCtargetとした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	770トン	0.8Cave5-yr	—	—
ABCtarget	620トン	0.8ABClimit	—	—

資源評価のまとめ

- 漁獲量の動向より判断
- 1998年以降の漁獲量は、900～1,000トン程度の低水準
- 資源水準は低位で、動向は横ばい傾向

管理方策のまとめ

- 資源水準が低位であり、資源水準の回復のために漁獲量の抑制が必要

資源評価は毎年更新されます。